



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

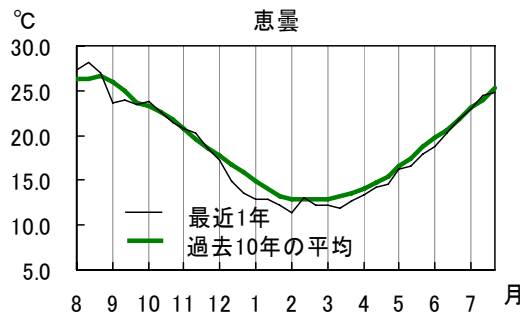
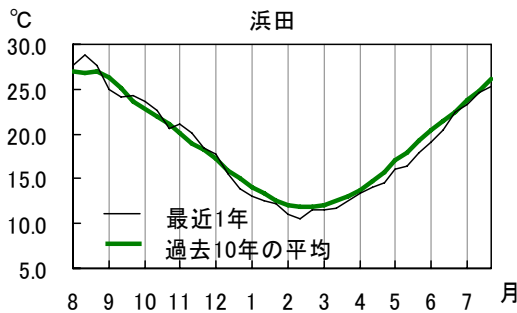
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《6-7月の海況》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	20.6℃	-0.8℃	やや低め
恵曇	20.3℃	-0.5℃	やや低め

5月に引き続き6月もやや低めの水温が続き、浜田で平年より0.8℃、恵曇で平年より0.5℃低い水温となりました。7月に入って水温は浜田ではやや低め、恵曇では平年並みに推移しています。



《6月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田では前月に引き続きマアジを中心に低調に推移し、漁獲量、漁獲金額ともに平年の約8割程度に留まりました。浦郷ではマアジ中心の漁獲で、漁獲量、漁獲金額とも平年並みでした。西郷ではマアジ中心の漁獲で、漁獲量は平年並みでしたが、漁獲金額は平年を3割上回りました。

【イカ釣漁業】

前月と同様に低調に推移しました。浜田港(属地5トン以上)ではケンサキイカ中心の漁獲で、水揚げ数は平年の3割に留まり、漁獲量は平年を大きく下回りました。西郷(属人5トン以上)では漁獲はありませんでした。

【シイラまき網漁業】

石見地区ではシイラの来遊が例年より遅く、6月後半から漁獲が開始されたことから、操業日数が例年の3割程度に留まったため、漁獲量、漁獲金額ともに平年の1割と低調に推移しました。

【バイかご漁業】

6月から始まった石見・出雲地区のバイかご漁業はエッチュウバイの漁獲がまずまずで、量は平年並でしたが金額ではエッチュウバイの長期的な単価下落の影響のため平年の8割となっています。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ・トビウオ類を中心に漁獲があり、漁獲量は平年の1.5倍でした。出雲地区ではマアジ・トビウオ類が主で漁獲量は平年並でした。隠岐地区ではマアジ・ブリ・トビウオ類が漁獲の中心で、ほぼ平年並の漁獲量でした。

【釣・縄】

石見地区ではアマダイ、カサゴ・メバル類を中心に平年の5割の漁獲量でした。出雲地区ではブリ、イサキ、アマダイを中心に平年の9割の漁獲量でした。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイを中心に平年の1.3倍の漁獲量でした。

大型クラゲ(エチゼンクラゲ)情報

- ・対馬周辺で7月26日～27日に数個体～200個体程度的大型クラゲが目撃されています。
- ・島根県内での目撃情報はまだありません。水産技術センターが7月19日～21日に隠岐島西方～北方海域で実施した調査でも大型クラゲは確認されませんでした。
- ・5～7月に沿岸で大量出現したミズクラゲは7月下旬にはかなり減ってきています。

【平成 18 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1 航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ	324トン	52	77	6トン	89	77	▲
	西郷	マアジ、マイワシ	1,954トン	76	107	18トン	79	99	○
	浦郷	マアジ、マイワシ	1,133トン	60	86	14トン	79	105	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	3トン	12	3	27 kg	23	10	▲
	西郷	—	0トン			0トン			▲
シイラまき網	和江	シイラ、ヒラマサ	15トン	59	16	820 kg	155	59	▲
バイかご	久手	エッチュウバイ	24トン	194	104	624kg	163	96	○
定置網 (大型)	浜田	マアジ・トビウオ類	45トン	249	145	1871kg	507	293	◎
	美保関	ブリ・トビウオ類	181トン	150	144	1,317kg	116	109	◎
	浦郷	ブリ・トビウオ類・マアジ	45トン	133	151	1,718kg	123	132	◎
釣り・縄	仁摩	メダイ、カサゴ・メバル類、キジハタ	5トン	21	38	15kg	33	58	▲
	大社	ブリ、イサキ	17トン	188	100	22kg	151	98	○
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ	15トン	56	69	27kg	72	80	▲

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下